

**総務省「令和3年度 課題解決型ローカル5G等の実現に向けた開発実証」
において「中小企業における地域共有型ローカル5GシステムによるAI異常
検知等の実証」の実証事業開始について**

株式会社愛媛CATV（本社：愛媛県松山市、代表取締役社長：宮内隆、以下愛媛CATV）、愛媛県（産業創出課、産業技術研究所）、ツウテック株式会社、株式会社ユタカ、DMG 森精機（株）グループ、日本マイクロソフト株式会社、エクシオグループ株式会社、富士通 Japan 株式会社、国立大学法人愛媛大学、（一社）日本ケーブルテレビ連盟、株式会社地域ワイヤレスジャパン、株式会社グレープ・ワンは、愛媛CATVを代表機関とする愛媛県ローカル5G開発実証コンソーシアムを形成し、ローカル5G等を活用した地域課題解決モデルを構築する総務省「令和3年度 課題解決型ローカル5G等の実現に向けた開発実証」において、「中小企業における地域共有型ローカル5GシステムによるAI異常検知等の実証」の実証事業を開始したことを発表します。

本コンソーシアムでは、社会実装の進まないローカル5Gの最大障壁であるコストの低減化に焦点を絞り、5G機器、インフラ、ソフトウェア等のあらゆるパーツにおける地域シェアリングを追求し、本モデルが高額な占有型モデルに対して5Gの品質を劣後するものではないことを証し、オール地域による低コストかつ高品質な共有型ローカル5G導入の実現に資することを目指します。

※総務省発表 <https://www.soumu.go.jp/soutsu/shikoku/press/20210901.html>

【本実証の概要】

期間：2021年12月～3月

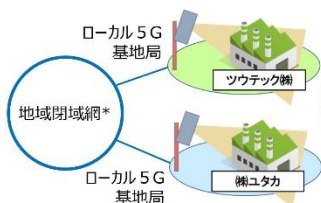
場所：愛媛県東温市（ツウテック社工場）／松山市（ユタカ社工場）

内容：・両工場においては熟練技術者の不足による生産現場の停滞、非熟練者への技術伝承の遅れに直面。特に中小企業においては導入コストが障壁となりスマート工場化に遅れが生じているという課題も存在。

・地域閉域網を共有するローカル5G環境を工場敷地内に構築し、AIを用いた工場設備の異常検知、完成した部品の検品作業及びスマートグラスを用いた遠隔指導、作業支援の実証を実施。低コストかつ高品質な共有型ローカル5Gにより、中小企業の工場における技術伝承及び生産性向上を実現。

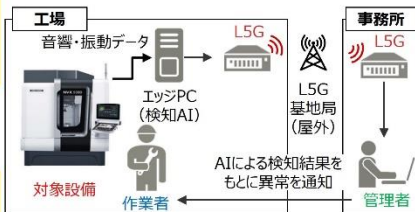
地域閉域網*の共有

- ✓ 地域閉域網*の共有により導入コストの低減化を図り、高い品質・セキュリティの担保とトラフィックの効率的な運用を可能に。



音響・振動診断による設備の異常検知

- ✓ 切削工具の異常をAIで検知、即座に管理者へ通知でき、適切なタイミングでの予防交換が可能に。



検品対象のAI画像解析

- ✓ AIにより非熟練者でも安定して基準以内の合格判断が可能に。



スマートグラスを使った技術伝承・業務支援

- ✓ 現場の高精細映像を用いた遠隔地からの熟練者による技術指導が可能に。



【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社愛媛CATV 専務取締役 白石成人 E-Mail：shiraishi@e-catv.ne.jp

技術・放送本部 秋月、古本 TEL 089-943-5001